



Title	地域発映像コンテンツの可能性：映画「鷺宮 物語」製作秘話
Author(s)	山村, 高淑
Citation	「コンテンツツーリズム研究会・第1回総会・第2部」配布資料. 2010年11月27日. 於鷺宮西コミュニティセンター（埼玉県久喜市）
Issue Date	2010-11-27
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/44381">http://hdl.handle.net/2115/44381</a>
Type	proceedings
Note	(主催) コンテンツツーリズム研究会・鷺宮商工会 共催 (後援) 埼玉県, 久喜市
File Information	contents tourism forum part2 Panel 20101127.pdf



[Instructions for use](#)

2010年11月27日(土) 16:00~18:40 於鷺宮西コミュニティセンター  
コンテンツツーリズム研究会・鷺宮商工会 共催  
コンテンツツーリズム研究会第二部

## 地域発映像コンテンツの可能性

～映画「鷺宮☆物語」製作秘話～

### ◆開催の趣旨◆

2008年の北川監督からの電話で始まった地域映画『鷺宮☆物語』プロジェクト。翌2009年3月3日にネット配信を開始した告知映像『鷺宮☆物語～序章～』は、2ヶ月で約12,000アクセスを記録。同月、中小企業庁「地域資源∞全国展開プロジェクト」補助金助成事業として、鷺宮町商工会の「地域発映像作品化を核とした新観光産業育成プロジェクト」が採択され、本編製作を開始。2010年3月に堂々の完成。3月22日の鷺宮町内での上映会を経て、4月10日～23日まで、ワーナー・マイカル・シネマズ羽生にて劇場公開されました。

同映画は、シナリオを一般公募、一部配役を除く大半の出演者も地域住民とアニメファンの皆さん、オール鷺宮ロケ、と、企画当初から、とことん地域住民とアニメファンの目線にこだわったものでした。地域映画の多くが、作品の芸術的クオリティや商業的な可能性といった「映画市場」重視の姿勢をとる昨今、こうした『鷺宮☆物語』の徹底した「住民と町のお客さん」重視の姿勢は、ひととき目を引くものがありました。言い替えれば、他の地域映画はその映画を完成させること自体が目的になっていることが多いのですが、『鷺宮☆物語』の場合は、映画を製作することで新しいコンテンツを創り、住民とファンでそのコンテンツをとことん遊び倒そうとしている点（もちろん良い意味で）に大きな特徴があるように思います。

こうした姿勢は芸術性や商業性を重視する映画製作の分野から見れば、ふざけた姿勢と批判されるのかもしれませんが、これを地域振興やまちおこしといった観点から見れば、地域住民と来訪者が協力してコンテンツを創造していくという、コンテンツツーリズムの非常に素晴らしい取り組み事例と見ることも可能なのです。

特に、当初、「予算」「時間」「ノウハウ」のいずれもが無かったにも関わらず、その地域を愛する「人」が集まって、とにもかくにも作品を完成させてしまったプロセスは、コンテンツツーリズムの大きな可能性を感じさせます。

こうした背景を踏まえ、このパネルディスカッションでは、監督の北川敬一氏はじめ、製作に携わった方々にご登壇頂き、それぞれ異なるお立場から、『鷺宮☆物語』製作の経緯を振り返り、地域発映像コンテンツの持つ可能性と課題について探ってみたいと思います。

このパネルディスカッションが『鷺宮☆物語』というローカル・コンテンツの更なる展開に繋がっていくきっかけになれば幸いです。

山村高淑（北海道大学観光学高等研究センター准教授）

## ◆登壇者◆

北川敬一

(きたがわけいいち／映画監督・プロデューサー)

島田邦弘

(しまだくにひろ／埼玉県産業労働部観光課地域資源・フィルムコミッション担当主幹)

島田吉則

(しまだよしのり／鷺宮商工会広報委員・島田菓子舗)

岡本健

(おかもとたけし／北海道大学大学院博士後期課程)

松本真治

(まつもとしんじ／鷺宮商工会経営指導員)

徳武英章

(とくたけひであき／公益財団法人ユニジャパン企画グループ) ※司会

山村高淑

(やまむらたかよし／北海道大学観光学高等研究センター准教授) ※司会

## ◆「鷺宮☆物語」企画～そもそもの狙い◆

※中小企業庁「地域資源∞全国展開プロジェクト」補助金助成事業向け申請書から抜粋。

### ■事業名

「地域発映像作品化を核とした新観光産業育成プロジェクト」

### ■事業概要

アニメのロケ地としての経験を活かし、何気ない鷺宮の風景を、鷺宮独自の資源である人的ネットワーク・知識を用いて映像作品化、「萌え文化」を核とした観光資源並を創造、中長期的には地域発のコンテンツ観光産業として複合展開させる。

### ■地域資源についての考え方

- ・ 本プロジェクトで活用する地域資源は、三つ。①鷺宮町の町並み・風景、地域にある何気ないストーリー、②アニメによる町興しを通じて構築された、地域住民と交流人口による人的ネットワーク、③それら人材の有する創造性・特に映像産業関連の知識の蓄積。
- ・ 従来の産業育成の観点から言えば、鷺宮町にはこれといった有力な特産品や産業の蓄積は存在しない。しかしここ数年のアニメによるまちおこしを通じて、我々は既存の何気ない町並みや風景の大切さに気づき、また、少ない昼間人口を補完し、まちづくりに協力してくれる人的ネットワークを構築することができた。これこそが鷺宮町の地域資源であり、これらを活用することで、全く新しい観光資源並びに地域産業を育成することが可能であると考えている。

- ・ 本プロジェクトのように、既存の町並みや風景・ストーリーを生かし、地域内外の人材の協働により観光資源化・産業化し、交流人口の増大をはかっていく試みは、昼間人口の減少や過疎に悩む地方中心都市にとって、大きな希望を与える先駆的な事例となると確信する。

#### ■事業計画

- ・ 地域発の映像作品として「何気ないコトやモノ・人」「取るに足りないことでも大事なこと」をテーマに一般の方から原案を募集し制作する。同時に、映像作品に登場する食べ物やキャラクターなども「萌え」をテーマに鷺宮の資源でもある人のネットワークを用いて募集し併せて制作を行う。
- ・ 放映後、映像作品に登場した食べ物やキャラクターの商品化展開を促進する。更には二次創作物として同人誌等の作品の制作も鷺宮の有する人のネットワークを用いて展開していく。
- ・ 地域発の映像作品を核とした「何気ない」「萌え」ブランド・独自コンテンツの創出。

### ◆「鷺宮☆物語」の物語◆

2008年	
8月	北川監督から鷺宮町商工会に電話。
9月～	関係者が定期的に意見交換。「鷺宮☆物語～序章～」の企画・製作が進む。
2009年	
3月3日	3月3日、「鷺宮町商工会の新たな挑戦！まちおこしドラマ「鷺宮☆物語（仮題）」～あなたも一緒にまちおこし～」企画案の一般募集開始。鷺宮町商工会と埼玉県産業労働部新産業育成課との共催事業。同日、スキップシティチャンネルにて告知映像「鷺宮☆物語～序章～」の配信開始。4月末までで約12,000アクセスを記録。
5月8日	5月8日、「鷺宮町商工会の新たな挑戦！まちおこしドラマ「鷺宮☆物語（仮題）」～あなたも一緒にまちおこし～」企画案の一般募集終了。66通の企画案が集まる。
4月15日～	スキップシティチャンネルにて告知映像「鷺宮☆物語～エピローグ～(13分)」の配信開始。 <a href="http://www.skipcity.jp/channel/ord/washi_index.html">http://www.skipcity.jp/channel/ord/washi_index.html</a>
4月23日	鷺宮ドラマ製作企画が、中小企業庁「地域資源∞全国展開プロジェクト」補助金助成事業に採択される。
5月26日	第1回鷺宮ドラマ製作委員会開催（於鷺宮町商工会）
7月8日	第2回鷺宮ドラマ製作委員会開催（於鷺宮町商工会）
8月	鷺宮町にてロケハン
9月上旬	鷺宮町にて撮影
2010年	
3月22日	中央公民館ならびにコミュニティ広場にて『鷺宮☆物語』上映会開催。
4月10日	ワーナー・マイカル・シネマズ羽生にて『鷺宮☆物語』上映開始。4月23日まで。（当初予定は16日まで。）
6月26日	TOYAKOマンガ・アニメフェスタ2010（北海道虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉）にて『鷺宮☆物語』上映。
7月28日	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭にて『鷺宮☆物語』上映。
11月13日	円頓寺映画祭2010（名古屋市西区）にて『鷺宮☆物語』上映。
11月27日	鷺宮町西コミュニティセンターおおとり（久喜市）にて『鷺宮☆物語』上映。

（年表制作）山村高淑・松本真治